

2023. 1. 19

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

## 2015年以降の大学や研究機関発のスタートアップ企業の増加が、 製薬業界のイノベーション創出に貢献していることを統計的に示唆

立命館大学テクノロジー・マネジメント研究科・児玉耕太准教授を代表とする研究チームは、大手製薬会社の売上高年平均成長率の平均値が増加した 2015 年以降、大学や研究機関のスタートアップ企業の欧米における M&A 件数が顕著に増加していたことを明らかにしました。本研究成果は、学術誌「Drug Discovery Today」にて、2022 年 12 月 27 日(火)に掲載されました。

### 本件のポイント

- 医薬品の研究開発に関連する組織間の取引ネットワーク構造の変化傾向を調査
- 世界売上高上位の大手製薬企業 13 社の年平均成長率の平均値の上昇と関連して、大手製薬企業の取引関係が変化しており、同時期に大学や研究機関からのスタートアップ企業の創出数が増加していたことを確認
- 製薬業界におけるイノベーション創出に、アカデミアや研究機関とのネットワーク構築が重要な鍵となることを示唆

### < 研究の背景 >

新薬の研究開発は成功確率が低く、莫大な投資が必要なことから、効率的な研究開発は継続的に新薬を上市していく上で大きな課題です。創薬においてイノベーション創出には共同研究開発、M&A などを含むいろいろな手段で外部からの知識、技術を取り入れ、活用することが重要となります。

### < 研究成果の内容 >

本研究では医薬品の研究開発に関連する組織間の取引が収録されているデータベースを用いて、2012 年から 2021 年の間における全世界の企業、アカデミア、研究機関等の組織間取引について調査し、これら組織間取引ネットワーク構造の変化傾向について検討しました。

その結果、2015 年頃から主要なプレーヤーを中心とした組織間取引ネットワークは分散し、2017 年以降は様々なグループをつなぐ新たなネットワークが形成され始めていることが示唆されました。特に、欧米における M&A 件数が 2015 年以降で顕著に増加しており、大学や研究機関からのスピントウトが有意に増加していることが示唆されました。さらに、医薬品業界のイノベーションの指標として知られる売上について、世界売上高上位である 13 社の大手製薬企業の売上高年平均成長率の平均値を、2015 年前後の期間で比較検討したところ、取引関係に関連してプラスに転じていることが確認されました。

### < 社会的な意義 >

今後、製薬業界におけるイノベーション創出は、アカデミアや研究機関とのネットワーク構造を構築することが重要な鍵を握ると予想しています。

<論文情報>

論文名 :Recent trends in interorganizational deal networks in pharmaceutical and biotechnology industries

著者 : 八代健太郎(テクノロジー・マネジメント研究科・博士後期課程)、林永周(経営学部准教授)、仙石慎太郎(東京工業大学環境・社会理工学院・教授)、児玉耕太(テクノロジー・マネジメント研究科・准教授)

発表雑誌 : Drug Discovery Today

掲載日 : 2022年12月27日(火)

D O I : <https://doi.org/10.1016/j.drudis.2022.103483>

U R L : <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1359644622004767>

以上

---

●本件に関するお問い合わせ先

(研究内容について)

立命館大学 大学院テクノロジー・マネジメント研究科 准教授 児玉 耕太

E-mail. [kkodama@fc.ritsumei.ac.jp](mailto:kkodama@fc.ritsumei.ac.jp)

(報道について)

立命館大学広報課

TEL.075-813-8300 Email. [r-koho@st.ritsumei.ac.jp](mailto:r-koho@st.ritsumei.ac.jp)